

地球温暖化対策学習会 17 名

仙台パワーステーション開設に反対意見

4 月 8 日(金)太白区中央市民センター3 階会議室を会場に、きらきら発電主催の地球温暖化対策学習会が開催されました。出席は会員 11 名を含む 17 名でした。

講師は仙台市環境局環境企画課の菅原洋課長と、地球温暖化対策係長の金久保美喜さん。はじめに菅原課長が「パリ協定」の歴史的意義について解説されたあと、金久保係長が国と仙台市の地球温暖化対策を比較しながら解説してくれました。

会員からは「国と市の取り組みを比較しやすい資料がほしい」「市民の努力が見えるような工夫を」といった意見が出ました。一般参加者からは鋭い批判の声が相次ぎました。「東西地下鉄線ができて、かえって交通混雑している」「仙台パワーステーションは地元仙台に CO2 を排出し、PM 2.5 も心配される」「コンビニの営業時間を規制できないか」といった意見が出されました。



法人の総会にご出席ください

出欠の返事はハガキでお願いします

既に正会員・賛助会員の皆様に総会の案内をさし上げています。法人の総会は委任状を含めて、過半数の出席が必要です。封筒に返信用のはがきを入れておきましたので、ハガキでご返事ください。
日時=4 月 29 日(金)午前 11 時~12 時
場所=若林クリニック(下飯田字遠谷地)
電話=0 2 2-2 8 9-8 5 8 8

若林区見学会を企画

当日午前 9 時から午前 11 時まで、若林区見学会を企画。午前 9 時長町病院玄関前集合です。井土浜発電所直行も可。

井土浦観察会もあり

午後 1 時から井土浦観察会も企画。長靴・長袖・帽子スタイルでご参加ください。午後 3 時現地解散です。

太陽光発電 順調に稼働

半年で200万円の売上

井土浜 1 号機・柳生 2 号機の両太陽光発電所の稼働が予想以上に順調です。井土浜 1 号機は 9 月 10 日から、柳生 2 号機は 10 月 1 日からの稼働ですが、この半年間(9 月 10 日~3 月 21 日)、1・2 号機合計で 58,717kw を発電。売電料金が 2,029,254 円となりました。

当初の予算は年間 3,700 万円の売電量。10 月から 3 月の半年間は 46,200kw の予測で、売電料金は 160 万円と設定していました。予算を 2 割以上超える発電です。

順調な理由は、井土浜発電所に 50kw のパワコン容量で、77kw の太陽光発電パネルを設置したこと。50kw を超えるとピークカットされますが、秋から冬にかけてはピークカットがほとんどないのが実情です。

NPOきらきら発電・市民共同発電所
〒981-3215 仙台市泉区北中山 3-17-12
広幡方 電話・FAX022-379-3777
メール=kirakirahatuden@outlook.jp
<http://kirakirahatuden.com/>
News 第 15 号 2016 年 4 月

自然エネルギーを考えるシンポジウム開催



水戸部理事長が

シンポジストに

福島原発事故を教訓に、再生可能エネルギーの利用促進を考えるシンポジウム「自然エネルギーで地域社会を変える」が4月2日、仙台市青葉区の東北大学片平キャンパスさくらホールで開かれ、140名もの市民が集いました。主催はエネシフみやぎ。きらきら発電からは15名参加し、理事長の水戸部秀利氏がシンポジストとして10分間報告しました。

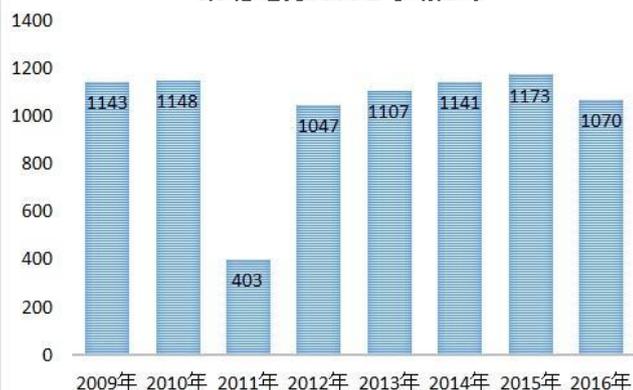
はじめに環境エネルギー政策研究所の飯田哲也氏が基調講演。ヨーロッパでは住民主導で太陽光や風力の小規模発電を地域分散で整備し、自分たちで100%電力を賄う地域もあると報告。「エネルギーのあり方を地域の人々が自ら決めていくことが重要だ」と指摘しました。

喜多方市を拠点にする会津電力の佐藤彌右衛門社長の講演のあと、地元宮城と隣県福島で自然エネルギー活用に取り組む6団体がパネル討論を行いました。若い方の参加も多く、未来に夢を持つすばらしい企画でした。

3. 11メモリアルアクションへのご協力 感謝申し上げます！



東北電力の 3.11 20～21時の電力使用量
(万KWH)
— 東北電力でんき予報より —



3.11 メモリアルアクションへの参加有難うございました。大震災で尊い命を落とされた方々を改めて悼むとともに、原発の無い安心な社会への第一歩となったと思います。

東北電力のでんき予報からデータをとってみました。3.11の20-21時の電力使用量推移です。2016年は、前年比100万キロワット原発一基分減っています。アクションの成果というよりは、5年という節目にあたって鎮魂という社会的静寂の反映かと思います。

今回は、さざ波のようなアクションでしたが、今後の原発を巡る状況の中で、市民運動の一つの方法になりうると思いました。

メモリアルアクション準備会代表 水戸部秀利